

百三十周年く朔旦冬至く人間と宇宙

校長 久保田範夫

平成二十六(二〇一四)年度は、創立百三十周年という安積にとって大きな節目となる年であった。紫旗祭を始めとして様々な記念行事が催され、生徒諸君にとっても記憶に残る一年になったのではないだろうか。私の思いの一端を示すものとして、記念式典における私の式辞の一節を引用する。

歌人 与謝野晶子は、次のような短歌を残しました。

劫初よりつくり営む殿堂に われも黄金の釘一つ打つ

遠い遠いこの世界の初めから人間は、文化遺産ともいべき文芸・文学という無形の殿堂を営々として築き上げてきたが、自分も釘一本なりと打ち込み、ささやかではあるがその営みに参画したい。それも、ありきたりの鉄の釘ではなく光り輝く黄金の釘を。

私は、本校一期生高山樗牛の時代から、現在の一年生である百三十期生に繋がる安積の先輩達が営々と築き上げてきた大きな殿堂が安積高校である、と捉えています。気宇壮大な与謝野女史の足元には及ばなくとも、安積という殿堂に集う私たち教職員・生徒が、一人ひとり持っている釘をしっかりと打ち込み、この殿堂をより高く、より大きくしていきたいと考えております。その釘は、プラチナかも知れないし、或いは鉄や木製のものもあるかも知れませんが、この殿堂のどこかに打ち込む場所が、釘がびったりと収まる場所が必ずあるはずです。仮に、在学中にうまく釘を打ち込むことができなかったとしても、大震災の経験をしっかりと踏まえて、生涯に亘って知性を磨き続けることによって、安積という殿堂を確固たるものとすることができるはずです。

昨年の「安積野第一二九号」に私は、「安積の「輪」、巡り来る季節」というタイトルで、「卒業後も続く安積の絆、安積・あさか・ASA K Aという大きくて強い輪の存在」について書いたのだが、その中で「冬至」にも触れている。少し長くなるがそのまま引用する。

：冬至は「日短きこと至る」という意味で、太陽が出ている時間が一年で最も短い日であり、夜の時間が一年で最も長いということになる。そのため、昔の人々は「生命の終わる時期、死に一番近い日」だと考えていたようで、現在でも、その厄を払うためにかぼちゃやお汁粉を食べたり、ゆず湯に入るなどして体を温めることで、栄養をとり無病息災を願う風習が続いているのだ。：

さて、平成二十六（二〇一四）年度の冬至は、十九年に一度の特別な冬至であり、我々は非常にレアで、めでたい年度に遭遇したということになるので、今回も冬至を話題にしたい。

今年度は、安積百三十周年という記念すべき年であり、さらに、旧暦の十一月一日（新月）と冬至が重なる「朔旦冬至」となった。太陽と月の周期（約三百六十五日と約二十九・五日）は当然違っていて両者が毎年重なるわけではなく、月の満ち欠けをもとにする太陰太陽暦と太陽暦の関係が十九年ではぼ元に戻るため、十九年に一度重なるようだ。因みに、我々が通常口にする「旧暦」とは、厳密には、太陰太陽暦の中でも特に「天保暦」（天保十五年Ⅱ一八四四年より用いられた江戸幕府最後の暦法）のことを指す。

昨年書いたように、昔の人々が「生命の終わる時期、死に一番近い日」だと思っていた冬至は、一方で極限まで弱まった太陽が復活する日とされてきた。そして旧暦では、月齢0の新月を含む日が月の第一日、つまり始まりの日である「朔日」なのだ。こうして、太陽の復活の日「冬至」と、月の復活・始まりの日「新月」が重なる朔旦冬至は、非常におめでたい日だとされ、古来、朝廷では盛大な祝宴を催してきたという。

具体的には、天皇が紫宸殿に出御して祝い、後日、新嘗祭（現在は十一月二十三日）の翌日、豊明の節会で、朔旦叙位、恩赦を行ったという。日本以外でも、冬至（或いは、冬至から翌日にかけて、冬至の直後など）には、世界各地

で冬至祭が祝われてきた。北欧のクリスマスも、起源は冬至祭（ユール＝北欧語：Jul、英語：Yule）であると言われ、やはりおめでたい日なのである。この「ユール」は、古代ヨーロッパのゲルマン民族、ヴァイキングの間で、冬至の頃に行われた祭りのことで、後に、キリスト教との混交が行われたが、北欧諸国では現在でもクリスマスのことをユールと呼ぶ。英語でもユールタイド（Yuletide）と呼び、クリスマスの祝祭自体を指す言葉となったが、現在は古語とされている。北欧のユールには、キリスト教伝来以前の習慣と結びついた、独自の様々な習慣がみられるという。

tide は、time であり、時、季節、潮流といった意味を持つ。この「tide」という言葉からの連想で、ちよつと脱線するが、約二十年前に、「クリムゾン・タイド」(Crimson Tide 深紅の潮流)というタイトルの映画があった。ロシアで起きた叛乱にそなえて出港した原子力潜水艦を舞台とする潜水艦映画。冷戦後の世界を背景に、弾道ミサイルという究極の破壊力の行使をめぐって、主演のデンゼル・ワシントンと艦長役のジーン・ハックマンらによる緊迫したドラマが展開される。

脱線ついでに、「クリムゾン」と言えば、『クリムゾン・キングの宮殿』(In The Court Of The Crimson King)を忘れてはならない。これは、一九六九年に発表されたキング・クリムゾンのファースト・アルバムで、プログレッシブ・ロックというジャンルを確立した記念碑的な作品であり、その後のロック史にも多大な影響を与えた。十四週にわたってアルバムチャートを独走していたビートルズの『Abbey Road』を抜いて首位の座を奪ったと言われているが、実際はそうではなかったらしい。それは兎も角、ロバート・フリップのギターと、グレッグ・レイクのボーカル&ベースは、凄いの一言。こうして、脱線ばかりするのは、私が安積で国語（特に現代文）を教えていた頃から変わらないと言われているのだが、切りが無いのでこのくらいにしたい。

閑話休題^{あだしことはなして}

先程、十九年に一度と述べたが、二〇一四年の次の『朔旦冬至』は、十九年後ではなく三十八年後の二〇五二年になるらしい。これは、「旧暦二〇三三年問題」によるもので、こんな事態が起こるのも一八四四年に天保暦

が制定されてから百八十九年で初めてのことという。これは、旧暦の月名が、天保暦の暦法で決定できなくなる問題なのだが、ここでは詳しくは触れないので、興味のある生徒は調べてみてほしい。(因みに、国立天文台のホームページ(<http://www.nao.ac.jp>)の解説が分かり易いが、それによると、この問題を回避する案としては三つの案があり、閏月を決める際に冬至を優先して閏十一月とするか(案一)、秋分を優先して閏七月とするか(案二)、冬至を優先した場合でも、閏一月とする(案三)ことも可能であるとのこと。)

ただ、国立天文台のホームページでちよつと気になる記述があったので、そのまま引用する。

「**わが国ではさまざまな文化や慣習が太陰太陽暦に端を発しており、今でも旧暦という呼び方でそれは生き残っている。**なお、旧暦(中略)は既に廃止され、その手順どおりに推算・公表する機関もないため、通常は現代天文学

による朔や二十四節気の情報を中心に構築しているというのが実態。(中略)旧暦は既に廃止されており、公的機関がどの案を採用するか決定することはないだろう。皆さんならどれがお好みだろうか。ちなみに中秋の名月は、案一の場合は九月八日、案二の場合は十月七日ということになる。二〇一四年の中秋の名月も九月八日なので、案一のように冬至を優先しても、そのせいで中秋の名月が早くなりすぎることではない。」

ここにあるとおり旧正月や旧盆をはじめ、日本の様々な文化・慣習が絡む問題であり、政府等の公的な機関が正面からこの問題に関わることはないとしても、例えば「大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 National Astronomical Observatory of Japan」といった研究機関等がイニシアチブをとって、混乱の無いようにしてほしいと考える。そして、生徒諸君には、朔旦冬至をもたらす太陽、地球、月の運行、そもそも地球を含むこの宇宙は何故誕生したのか、別の宇宙は在るのか、tide即ちtime・時間とはいったい何なのか、我々人間は何処から来て何処へ行こうとしているのか等々、スケールの大きな物思いにふけてほしいと考える。

(メモ)

名称	暦法	誕生
元嘉暦	太陰太陽暦（所謂、旧暦）	中国
儀鳳暦		
大衍暦		
宣明暦		
貞享暦		日本
宝暦暦		
寛政暦		
天保暦		
グレゴリオ暦	太陽暦	ローマ

「貞享暦」Ⅱ「天地明察の」 渋川春海が作った、初の国産の暦